

「きぬむすめ」の追肥時期と収量・品質

～早い追肥は品質低下を招く～

1. はじめに

「きぬむすめ」は高品質・良食味品種として2009年に県奨励品種に採用された。本品種は近年、問題となっている登熟期の高温障害による品質低下を回避できる品種として期待されている。水稻栽培では施肥が玄米品質や食味に大きく影響することが知られており、ここでは、追肥時期が「きぬむすめ」の生育、収量および品質に及ぼす影響について検討した。

2. 試験方法

2011年6月13日に「きぬむすめ」を移植した。基肥は塩加燐安 284 (N:12, P₂O₅:18, K₂O:14) を用い窒素成分で5.0kg/10a施用した。追肥はNK-C12 (N:16, P₂O₅:0, K₂O:20) を用い、窒素成分2.5kg/10aを2回(合計5.0kg/10a)施用した。追肥時期は①(出穂前30日と18日)、②(出穂前22日と12日)、③(出穂前18日と8日)とし、それぞれの追肥時期が生育、収量および品質に及ぼす影響について調査した。

3. 結果

追肥が早い①区は、他の区に比べて草丈が高く、葉色が濃く推移した(データ省略)。また、穂数、1穂粒数、m²あたり粒数、収量が多かった。一方、千粒重は軽く、登熟歩合は低くなった(表1)。

表1 追肥時期が収量および収量構成要素に及ぼす影響

追肥時期	収量 (kg/a)	穂数 (本/m ²)	1穂粒数 (粒)	m ² あたり粒数 (千粒/m ²)	千粒重 (g)	登熟歩合 (%)
①(出穂前30日・18日)	63.7	348	102	35.3	21.8	78.1
②(出穂前22日・12日)	59.3	320	84	26.8	23.8	90.1
③(出穂前18日・8日)	60.2	327	84	27.4	23.9	89.4

注)収量構成要素における重量は水分15%換算値
収量は1.8mmで篩い選した精玄米重

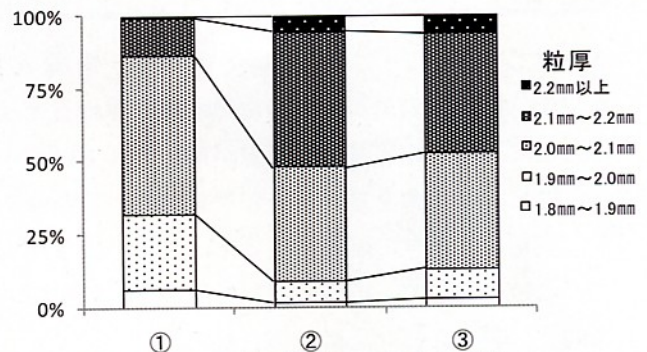


図1 追肥時期が玄米粒厚分布に及ぼす影響
注) 1.8mmで篩い選した精玄米約30gについて調査したもの

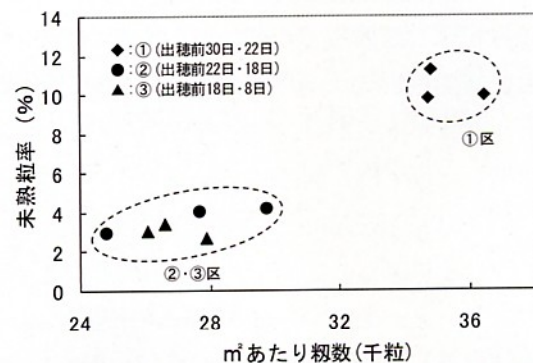


図2 m²あたり粒数と未熟粒発生率との関係
注) 未熟粒率は青未熟粒と白未熟粒の合計値

玄米粒厚分布は、②、③区で2.0~2.2mmの粒が多くを占めたが、①区では1.9~2.1mmが多く、粒厚が薄い傾向にあった(図1)。m²あたり粒数が多い①区は、②、③区に比べて未熟粒率が高くなった(図2)。

4. おわりに

「きぬむすめ」は追肥が早いとm²あたり粒数が多くなり、収量は増加する。しかし、玄米粒厚は薄く、未熟粒率が高くなり、品質は低下した。今後、本品種の高品質安定生産のため、適正な施肥管理について引き続き検討を行う。

(栽培部 足立裕亮)

和歌山県農業試験場

農業試験場ニュース No.119

平成24年7月30日発行

編集・発行 和歌山県農業試験場

〒640-0423 和歌山県紀の川市貴志川町高尾160

電話：0736-64-2300(代) FAX：0736-65-2016

http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/gaiyou/001/001.htm

R70
古紙配合率70%再生紙を使用しています

PRINTED WITH
SOYINK